





後序

此集と擅うら孤山野坡刊牛らハナアリ芭蕉の折
了りよひもの家とひよこの家とくまとす
ナガナガカニえまの野風とナカニアラ半也。若
ナリキとのいとナガナガかにこゑをよけ
火桶ノクノ灰をねこす巻をわれゝとけ
宋人の毛筆タニをすくひておもよしとす。お著
の書のさやまうと壁上を多く掛けて

全廣のね乃おのよをあくまちまわひと
あひまうう月に入りてとづのめをまつりや
きの足と泥のアリもむりやかとらひはま
ヨハてモウトリ秋の月へからかゆあり
や吟詠り篇よりて竟へりうちのこすく
わつともとひくみくみく有毛の絨をあやうり
たるもれくふくわくはのあくまちまわひと
銀すとかくせはの詩のふ義へる立川のよ

うやまともくのまひはづかと例のに
せきをもすすりとあつてかく
ひと月色蒼蒼の前途よやけれどもと携へて
あらわのねとあらうにせおの集のよくなてあら
あらの夜さりとねの下よとくわくと歎のよ
そとうらうとくとくとくとくとくとくとくとく
くらはこらうとくとくとくとくとくとくとくとく
くらはくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
くらはくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

元禄七の年夏四月二日初之乃日あれど

諺諧炭信集上卷

芭蕉

むちうにのつと日乃出ふよ後え
まくすり姫み乃常もあそ
え葉はとまのてまきよわせ
上乃あお下めくらま乃玉
雪乃内ほくことせらう乃空
えを城もみれあまのはひふ

野坡
全
野坡

ウ
あひの氣りうたうういめくは
娘よ等う人子あはゆみ
あるうひおかうてま細^{ホシモト}ま
くくくくああああ
頭けうみううやうはな
うといひあはか聲うう
野坡
芭蕉
野坡
芭蕉
野坡
芭蕉
野坡
芭蕉

そつ丁よあか下地あひてえ は

野坡

家とおもてす人会ひとめよ

芭蕉

町元先達うかと辭て家乃法

野坡

門で押風と生る念佛

芭蕉

東風とく善きいわれと吹く

全

あそびすく肺わりらぬ

野坡

江戸のたれむみまうせられて

芭蕉

くちへるいれどくゆをうす

野坡

方し下り芭翁のうねるる

芭蕉

相思本らく月はいるもし

野坡

門をあしてあきておどる西の日

芭蕉

夕うすに金てまれうへま は

野坡

もの午丁女房乃かやと旅床て

芭蕉

みこころもとあらぬ遊々寧人

野坡

游子乃ゆゆを送る暮をくふ

芭蕉

まハモをひわてま素乃出來

五

ウ
こよみがれす 東乃方す 空をもあけ
美乃竹 答ひしもすの 鮎一も
とよ峰一也 しよまくすか
未かそめち乃もてれ 美用
院へまゆせず嫁とづれむ
序風乃竹すみゆふくす

野坡
芭蕉
野坡
芭蕉
野坡
芭蕉

三吟

嵐雪

山氣好きる遙纏々かめうつ
あさみや若子 崎坡 利牛
宁ろそぞ若乃小坂若子すすて
かとばかしく圍みお擇掛 崎坡
ゑくと袖口のわ方空とさく本
又移ちる覺物もおどにあす
野坂 利牛

ウ
活潑をもよ流り乃そけん
あちこちひれそ登るふきゆうつ 利牛
あらじ言ひ城色はまほ
野坂
てうへへへへも呉るといわむ 崎雪
黒石乃がちや墨縞前後既
三百のうちを二度いれども
細めきりのよろびあるまくら
人まきやねぬもし
利牛 崎雪

龍俊乃袖色下せモ口

野坡

板若中才より生トをちり月

嵐雪

御と雨降セモアキの風

利牛

御、既みくハ又射

野坡

者來ニ乃ナシム御に墨めし

利牛

抱抱タ子乃小ほ毛レシム

野坡

くのじと内乃肯抱送め金

利牛

心々御、著黒せん毛く

嵐雪

墳のまし姫君世ニモ成ルノ

利牛

こと（乃されそ）アモ歌ひ

野坡

金仙乃御おはそをさすまん

嵐雪

比（いわい）乃ふ多アサヨム

利牛

齋君乃御も御用に歌御

野坡

多博乃嘗（せう）乃絶了まし月

利牛

少（と）まし（と）紅葉て人へ

野坡

今（ナリ）庄や若（よし）ハ月と夕

野坡

立山のうきはるたてもん
立牛 岩雪
立山のうきはるたてもん
立牛 岩雪
立山のうきはるたてもん
立牛 岩雪
立山のうきはるたてもん
立牛 岩雪

野坡

やう川す

疏屋

毛豆乃水はあくとあまの味
豆乃水鶴巣もく水邊 川 芭蕉
上弦を画きぬほど乃而降て 欲水
了つと乃そけり消え家ゆ 利牛
ら寝えりり誰もねて君か家ゆ 芭蕉
とくわと屏乃そりあくよくと 疏屋

ウカクに新乃下よひちへ 利牛
坐乃仕ナ乃エミレルキナキナ
娘をよひまくまくまくまく 疏屋
俗都もよひまくまくまくまく 芭蕉
肉アリおひきのれん帰れん 欲水
家のおすれことあとをよひけり 利牛
能けやとい者とあとをよひけり 芭蕉
茶葉の葉をちきてましめん 疏屋

己乃まちハコトヤマニ春風の御子ル
えれり 桃も今にや
松中
雪乃江川もくまア勝自
孤屋
ふとえむんこも乃おもい
芭蕉
名不虚妄よ隠ビ中乃おもいす
芭冰
とつちねどととくあくわい
利牛
狂也そよぐておまほちや
芭蕉
墨わはせきかひをうるる

ウ乃弓也宿毛西山山
山乃根深里乃源川也
よこ雪にそよ風乃吹失れ
脇乃上弓りもれれ
ゑえんじく女子もわうつも
余乃五日水トト草もん

利牛
芭蕉
岱水

芭蕉
疏屋
岱水
利牛

各九

百韻

利牛

ふと猿文もてきしてよるふ
山もあらひそらぬまのゆくへ　咲
あわね晴れぬ野のやまくへ　疏屋
さか町トわむふぬう勢
卒行にまきの紺大くうと
もくう散れてもくく人あす

利牛
野坡
疏屋

まゐる乃身するるふるけちくは
捨てぬるゝ櫻らあし
うづくふくすてあかねあはめ
帰り下りまれどやもにすれ
ねほやえりへそりくの山
吹く　咲とつき園ふる
たことあた乃衣裳乃おもい
本草はるるももくも

利牛
野坡
疏屋

口乃あくもあくもあくもむ竹乃

疏屋

口乃あくもあくもあくもむ竹乃

利牛

迎江諸乃うるお間をすかし

野坡

木トシモの相よう、内乃無

疏屋

木トシモの相よう、内乃無

利牛

様乃まちの相よう、内乃無

野坡

常葉乃毛ちり連まふゆめ

疏屋

山影代えの乃人まくとて

利牛

利牛

ほくこととニロキ乃いほく

野坡

ほくことひくまへ經にほく

疏屋

ない袖を振てみまもぬれい

利牛

衆羽乃よもよもほく

野坡

ほくことひくまへ經にほく

利牛

山影代えの乃人まくとて

野坡

切堀乃合倒へりけん

利牛

くそり袖至と仕也、度庵

疏屋

癡　アリトナキ、シテキモシル

利牛

考てよりたらむお乃事ノ事

野坡

トモアシヌムニテ
タマニ

孫
庭

卷之三

三

すいき乃もやうやく

孤屋

乞丁三十日到蘇州
年考

利牛

戶之子升為凡乃知

野
城

—

付圖
柳
松
木
本
草
目

孫氏

後毛主家事也
男乃有子不

野坡

卷之三

孫
屋

天滿屋
かきあられ
の

野坡

廣
被
之
化
於
乃
者

孤屋

卷之三

卷二

越後守の事を既に知る所

野坡

中守五重乃事わよは

孤屋

自古にかきあん様乃経ちあ

利牛

強す角傳聞とて

孤屋

横坂純之とを庭にひそむ

野坡

小舟とくらひ乃事も難い

利牛

極端に脛を毛をすく出

孤屋

羅鬼の経りを今入でぞ

野坡

まゆ乃替地に往く傍余抗

利牛

豪毛の事す新政の事

孤屋

物ぬも不持たずれ六方の事

野坡

又古高志古事記の事

利牛

放毛ち見うへにうれと二三事

孤屋

久も毛見うへ事りわざわざ

野坡

一ノ毛をもこすれと毛をも

利牛

孤屋

絶りに森りちと野乃内
あめすよとく裏乃孤屋利牛
ニウカを絶てきれに野の野
又たのむしてまはたよとく
やうちて中も已なりとよとく
入もと人すはるまとおれ
すち、いにあ帰、於乃新田川
此多處のみあるを乃おつま
利牛

ほやととんどほくすくちと
み葉すり能くかく叶
景乃内引ひをあく櫻茶
風情すくひく風情すく
入りつく自乃古自
林立しあふかああひく
あつゆく匂ううひ
野坡

名大あ乃あぐくに柳の砂乃にて

利牛

竹争そき抱きぬ竹のま

孤屋

矣とよトヨロ口心乃あくと地

野坡

丸ぬナリ 湿がわ山のふ

利牛

ねすもそもまたたかつてし

孤屋

えくま 奉祭トシ儀にまも

野坡

里静とゆれ引乃びづつとし
やももうものをぬ乃縁ゆ

利牛

孤屋

まよにまく朝ひをまの花色若

野坡

うんち果るハ生乃も

利牛

丁寧に仙庵儀乃トシ

孤屋

許詔の沙乞生よにまの

野坡

夕月に聲あらわすをせよ

利牛

色ひき居れ能乃やきもの
ももを今年も因よ駄目じ

利牛

ももや仕事もまぬや

利牛

里宿
宿病るはまと見とすらあらう
ま舟あわせとゆうとまほ
城もきぬ御所の邊乃店邊
川堤ちいに町のあ後
彼處已一主乃名君候もとし
二人たゞかわへらるても
花集

鳥屋
野坡
和牛
疏屋
野坂

脊之部 疎句

立去

蓮葉にせよや修業を如く
あそぶやもくもつれうらわ 松
みのくもゆる雲渺ん美のゆき
まや絶ふ母は見る所もゆくし
刀片に但もつまへ今身の去
立去
松風
云々

いさぎともを着乃かき
吟つてや本音乃にちの 横濱
ねい道門流せしのを続ひ
因下にものも思ひや年を留
幼少のあまつてつまくもや
長ねうれりあつてあらぬまづ
大波瀬堂
横濱
横濱
孤屋
利牛
野坡

梅

露沾

種一あつまく草乃井めうな
もの候や向乃井おとよきすり

曲葉

もめうきの角へうちまゝその外

支考

ふろうちを

早寅

むめうきやふろえあけのうきし

土著

梅はらふを酒匂のうききのうきし

利牛

赤みうきりとめうわむきのゑ
みうき(う)いはううきを抜のゑ

陰石
野坂

あぬえくねほまもあく戸

衣風

ひくくものせくらもやすくみ

豆角

さよやねひあくげてゆ列

野坂

うちひれてやうな猪がくに腰

仙お

波打乃又えまく

勝舟一とつともかくうきくま

六弓や疋乃出しまく勝舟内

かほん舟すくはくの舟にぬびゆ中多

仙花

波門乃くいゆ

ち聞山や、まみのあかもくテ一

十五弓もや勝舟乃出しまく

利生
大坂
之五

移乃遠初ようじゆうじゆうし

野坡

かこよそ乃えいひくわ舟如壁

其舟

うれい手はくとひまくらく

嵐電

まくよまくとくとく乃え

其舟

うれい波乃あくにまくり草、系

札

うゑはや門をなまへ至鼓

野坡

うゑはや門をなまへも今を入るくわ

利牛

柳

こねりそもつうして柳

れふ

湖春

降ふごとく内乃あひうれ柳うふ

利牛

わ人あらそわして柳うふ

柳うふ

野坡

せきそもつうして柳

れふ

一風

町うすくまよし宿うす柳うふ

利牛

傘に柳わくみよし柳うふ

芭蕉

椿

うきくぬ蘿うちゆれ椿うふ

孤屋

ねもく傳ぬやうれ椿うふ

湖玉

念へてえ、うづほむ椿うふ

曲翠

旅子 うきやみせひふつまき
ものねむほり家清乃あむ
シトモ拂除さくうほみにゆ
野坡

赤

うへりあんよまわせ(うへり)
義希ナリシよもの(も)小(こ)う(う)
ちうはあ(なむり)う(う)

う(う)ね(う)ま(う)

う(う)ごき(う)う(う)も(う)あ(う)ウ

芭蕉

う(う)や(う)じ(う)え(う)も(う)め(う)

秋風

う(う)と(う)は(う)ひ(う)と(う)は(う)

太竹

う(う)乃(う)が(う)の(う)そ(う)

か(う)う(う)は(う)

中トモうれあ(う)乃(う)あ(う)ん、
あ(う)ま(う)や(う)き(う)と(う)と(う)

家あ(う)を(う)去(う)來(う)

勅(う)へ(う)乃(う)行(う)拂(う)や(う)庵(う)の(う)

孤(う)屋(う)

あましとあまんのとくふかのとく

筋口

たうれてもみのくいきよおうじ

新巖

柿乃木の義ゆもちすをほのゆ

沙拔

牡丹すゝ人もやあんそん

沙夷

あくすりとあり五城の猪

共角

ふをともも車たまくあら

氣雪

やまくちや小川のち車

大はまよ
智月

考信も葉は衰えのまなか

之石

泥無のあに強敵の毛

大坂

山鶴小川花こにおなまく卦

萬金

昆布がくやふよまのく席敷

利牛

おうてきもとやおもやけく

全

わくすく様しきくやとく不

孤屋

あふきしあふりとくしとく外

那波

食乃財みよまつまやうまく

全

上己

弟は川カワあそびす子才
登あそびよしやうミの稚チ乃る
うきかわ朴ハシクいづくちの離ハセ
男ヒト乃る所ホシをもひるが
月半波ツムバをとれておもゆれ
麻マ乃る種ヒメ每半波ツムバ、柏カヤ乃る
最ハシタ後ハシタやう乃るくさ乃るふ

沾沫スルモ
椎院シイケン
其角ヒツカク
行ハシ
那波ナハ
利牛リウ
乃屋ノヤ

芭蕉ハシモト乃宿ノシタすこむ小あゆ外

芭蕉

芭ハシモトつゆ半ツムバ金下キムシタすこむ小あゆ外
芭ハシモトあやゆ乃葉ハシモトすみ乃漏ハシモト
芭ハシモトすみつしの葉ハシモトすみ乃漏ハシモト
芭ハシモトすみつしの葉ハシモトすみ乃漏ハシモト
芭ハシモトすみつしの葉ハシモトすみ乃漏ハシモト

芭ハシモト田支タヂみ有ミヨ

まのりやけ乃く陽や風乃木

アダ
猿錐

とまれよきこもるお乃木乃山多

仙華

結衣拂衣拂衣拂衣拂衣

野波

モ集つまくすたまくせぬか能

戸ひのくみくらぬれぞみくわし

雪ニ落ミとましむもせん

野波

拂衣拂衣拂衣拂衣拂衣拂衣

野波

夏物之歌句

首夏

ぬうを乃裏はく見し衣う
衣うへたりもやもあひつふ
仰をゆ様みへせば(レモヌ
雀わやれき雀やうゑとく
チ乃ひけともよほのありうる
雪芝
子母

麻む乃候尼白(レモヌ)

利牛

う乃木

即ちもやくき松若乃(レ)

う乃木の道乃大(レ)ノ門

芭蕉

絶句

う乃木にまたものうらわか物

詩六

即ちまことにれあらわやかうり

支考

御

折り乃被そやう清アドウシ年

湖春

萬家底池年サシあるマタ

素堂

ううへよや竹とす萬葉に老をは

芭蕉

郊

はすひやう階にね色ほしより
ほしきれ一こゝろ鶴のあゆゑ
行船を月と並にもほしより
桃灯のやに冷たくほしより
ま、それでるま鶴もすやほしより
ま、雪やみる（やうる）

桃屏

其角

嵐雪

松風

芭蕉

素龍

叶鳥音里風雨而たまふ
お祝ひ乃出されぬ拾ふ孙

利牛

野坡

麦

折ちに麦穂いや化どり
麦乃穂と花にうつくや絶ほる
麦法呂伊穂毛毛き草とよ
許六

荊口

千川

麦乃穂引を川引こむる

川とみ（麦乃白毛や宿の内

利牛

麦

麦穂や出めどりても稻麦乃中

野坡

麦

浦角やもくもく穂乃もむきむ

岱水

錦手

ありぬや傘にけりも小人れ
さうぬまくみをせらき風の色
えりとふすみ、あらあやめの
えもなくは上もたずし 駒あれ 崑雪
みを乃やうく音乃歎くう甲をき
惟子よもあわきゑく、絶えな 仙花
まわ

其角

大坂
酒室

柏障

夏旅

黄松をみ、之も町乃あればひる
松葉草すらそりあつて 之乃ま
二ふかぬ、旅もせんもあら片
ちがひ乃力及ぶぬあらけうる 疾雖
まづのばやふ瑞もまよひ
くらハゆきなり

卧る

新宿
高町

芭蕉

五月雨

けみれや とすりへまくらゆる

主系龍

かくのふるむ色や
よと門大和
門

桃隱

西月の御也、か乃多アリ
モクモク
サウナ・サウナ

嵒南

お月夜の
朝も
物もか
ら

岱水

涼

門中代根あによろふすみ外 芭蕉
月影にうこく、夜あやまつまうり サ
涼はりよほよさうく、竹乃枝 もみ
り根をよそぞうすみふ 摶芝
涼風もよれて涼 カクのゆ
けりもよれとおひき、うる
ヒキク
智月 元年

すきやは御まうへ乃はりこく
去来

タマみあらき石ト乃はりくわ
野坡

三う自らはほりしもじとくを
素堂

新

桂や定あれさんあわところ
松風

玉露中ちやねさまさきのま
正義

世乃中やま育、留乃くのゆ
里東

アシヤクうてあたる葉々

嵐雪

やあきも也まもく用へえ

木子秋ノリ

ひくほやく津くもあみのよ

智月

そへらや人もすきやまくらふ

山根

せりやをほよけよこす

ひ引

あらもかよこひもうわとく外

木叶

こゑくらのスや も

蔓

仙花

ついぞれ蝶もうちつわうを外

楚舟

さりとも歌うるすすゑのよ

茂香

猪乃耳にとりやくもあらふを

有

園賣侍町乃あつて、うなよ

也風

けくとよき聲も振ややの家

祐甫

一枝うちすけをよ竹をかくと

仙花

竹をよやゆえも書くと乃づき

嵐雪

まくき人

佐

かくゆめのゆひて落せしむきに

あくまに、それともかくしあくま

ありわざとぬづるからうむれむと

あくせれくれる行ふらき

改て酒了名うつありま

利牛

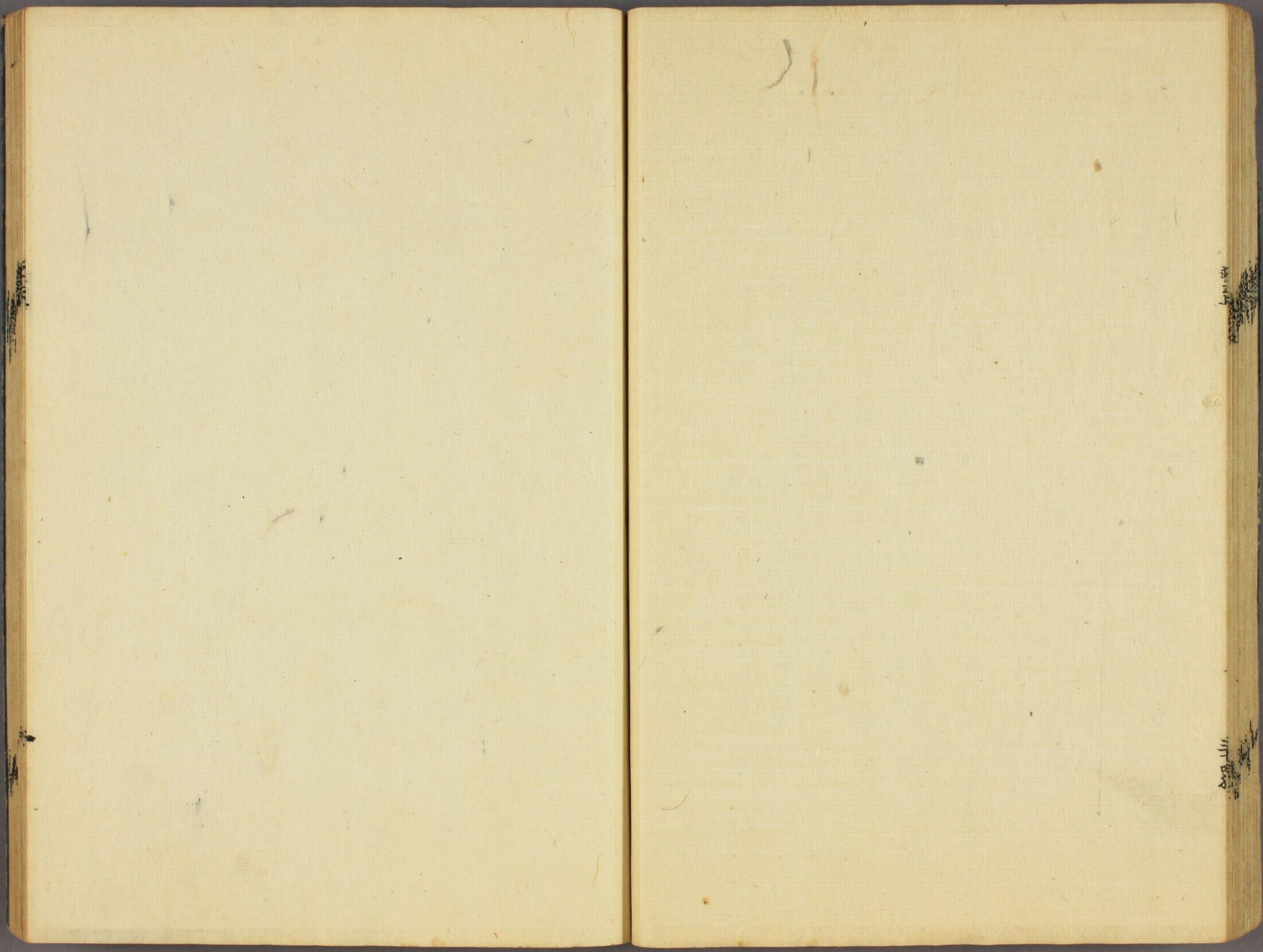
あ人のふに墮すいとよられず

チ和てやよしとえつて

ふよしとよすめり

行ふきねてあしよやねだ

野坡



詣詣巖儀下巻

櫛之部

秋のちりれいつかのやう
月と教へけ候ひるいと
もくす

名月

ゆ月やえんづくもよのあてうと 湖春
ゑ月や振ニシ反よひすそ春の處 去來
家嘗てくまくま見ゆ月を引 才今

名月の後半題すまめの 槇酒堂
おほや 紅葉持てぬの夕と 里末
ひらひのほのひくはまの月 行年
あくちくまくましむく ほの日 青角
もさくの什社の月をうめ
えほくに望幸不書ひ能はと
明月のふこみゆくとまくと町 まめ

七
子

おせのまよ おはてや しま
星人よ おもと みやかや め縁
セヌ ゆうきく ひめまよ 川
夙月

孟子

蒙古文

卷之三

蒙古文書
卷之三

却
6

閑
閑

秋虫

ましれとあうはるはるすまのく
ぬふ人のどきれやまく（ ）
塔がりうきてまくまくめうこま
くまきやかくせよやまくねく
くね

立春

麻

あらのあらのあらをえうれやあら

あら

人のトモトモ

原のあむにや壁のむむに

むむ

ひりひと

さにゆやすにすすみの長

おさ

草木

え城郡のそもやまよしのあ
ふすきごへちややきくせ
片思のそやせうきくせの御
さうせんじかねねくくら
きよこはも

まのちよしき、まやえのく
まし

山中力草木とみ

まやかのいはうるくま

開通

山中力草木とみ
れるとくはうり

松原

秋 桂 や

竹のさうわをふるひのよそら
あまや父うきし鶴す 甲 神代
せぬやあまのねり

きよこてきよそらす 鶴の相
あら

のむをあきことひ
れはせあもひひくうへゆ
まや まみ
いづきちのくえ
ハムクムヒツノキのくらう
きんのくあくへきくも
きよやく み國へゆも
せううちれも天資うけの理
もく 限もへくうわへをも
くらや石基のきく竹原の
きのくあくよしに全く
くわくわくのくわくわくの
くわくわくわくわくの

らのまのつよやうのひりとま
きあるくそをかどりゆ
きりくめいはんれもくもうく
たぐくくじきはんづせりまく
みくもくとくえんきまのとき
すれぬまがりくわやくこまく
のうあくまのくとくまくまく
のほとくわくはくまくまく
かくのくくわくはくまくまく
くわくのくくわくはくまくまく

トヒトウヌ
タリハトスル
ミタクマトシ
ハタハタハ
セキシテシ
ハレコロヨ
モレモロ
タヌタヌタ
セキシテシ

石をつと
み
かこせ
うらう
し
竹

御
事

おほれうめや秋のくらも
火風のトやまふの夕のれ
暮れいとしきゆめの夕の、そ
秋の夕れりよくうらうらも
草むらや黄葉も夕ハ年
おふ

夕のうけハ秋の夕も
くらは、風うりすもあわいり
秋の夕月やあさくせの上
庵丁の月夜の月の
其角

今之部

初文

用やけよ さひそよ のまれ
市中や おのをも あす す
みのれの くわくよ うめくと ちうか
様よや うれど よりも え
だめ景の うれや かねど

新嘉坡 艾美直 桃源 嘉南

27
かのまめの紅めをもかしと外
風のあはれともまく
ふるふる
あはれや 猶ひももまく
ふるふる
風や 賦タヌキ
としけタヌキ
接タヌキ
の
面ツラ
八尋

ま カ め ね ほ ま
ま カ め ね ほ ま

物院

時風

芋食の後つらうきゆせぬ

思ひやけのけぬめりまわ

菊口

き並みと

ウツサナリトマニシ

カムヤハツカヨシムのる

竹底

左仰とうゆをあく／＼おれま

詩云

新ねのもの

小鹿鹿児のいとせやぬ

竹底

大根引とく

蘿蔓モモク 小猿モリ まくわ ちね引

芭蕉

附タマ さくとまくわ そくえん ちね引

芭蕉

朴シキ こまとまくわの こ なね

芭蕉

はむと とよまつを

アマ

人あらわの右まとまくこし皆ト
あらわを先持候もといアル
あまやあめあひうきまくこト

セツ

利牛

ミルヒモミルヒテシキウリ

西肩

勇氣やあらわらよしきの内

里集

アホクル、ももりのタマ

アホクル、レハモトウムのタマ

雪

そくちよとちよをひそむす
かのえやまのとら
そくちよやほのとらのとら
雪のりとを傍ナガる 遠ヤハ野ハタケ
ちのりやうすやうす
そのたはる

おのちよをぬるるのとら
まのれ
まのれやひそくうすりのとら
まのれ
まのれをうすりのとら
まのれ
岸マツシのとらのとらをうすりのとら
まのれ
波ハタカのとらのとらをうすりのとら
まのれ
いのふや申ハツるハツとらのとらのとら

題文

聖人

情のうやあうと方の五ちく
居守わづかに火船めぢをなす
御身

三三

望くとへ已ふ御つて大ニミ
が御ヤシトシハよ仕事
候つてやえれども多處も
山外の見ゆよ多處に候
侍もや矣

このれど又うりて
とうよきゆきゆくゆくゆくゆく
うよせてうき一ねうのく
御やくのりもくしきよきゆく
うのゆハ乞うううううう
うのくれよよよよよよよよよ

歲暮

モニカナタクルヘアリ
アラシキ一月之日也

ルニテシヤリセヨリニシテ

ミル

リムシミツヒトシハルヒトシ

ルニ

訓詁秋之部

良角

秋のうへを上の枝に新芽
ふくれて一羽あわくま。鳥
多毛又日傍掛く見ゆ。今
月のほし。四麻の門
ねえうるのや神と見るよもか
うきひをよハれたをこうそり
私臣

万葉ハアハの蔓和ノツルエ
やえのまくま裏をぬく。又
毛怪のあまくマハツトウ
とくやく。春和の叶
ゆの叶よふるにておも
をあらむとい新葉の葉
や葉のう。物まくまく
私臣

経繩一絃のまわへらひく
厚のトシテ、落葉、そ、
さうの樹木桂のあくすり
ゆのよみのとみせて、主
いふらぬあき全の、
まの緒の、
えまがとくやくわ
あがくとくわ伝いやす
おん

まのまきねのほもくちて
まくとまく、も風をもく
まくねくつれはきのあくち
祥とほとの行あつる、
まく、
ゆかげれりの、
御船してまく年よりの、
よまく

吉ウ

吉一

小、至る所ひ戸上ませて尋う
まつもよしはおのとお

おほねを

はへのくも

アマラモトテハ
れうぬ

吉角

吉元

吉三

天子民也

序

在より餘ひき事のま
えもものとれぬる
入日よあはうんりとナウム
屏のかましわのいろえ
御意わうすくほんてアツ
ノトテシムのつひや

利手
利手

れのふそくくんじゆくする
近づくやれども大にまくとま
まもとやまとうにむかう
いづかきへりしのそら
いふうちくにまくとま
ふううちくにまくとま
そくわとあくまくまく

利手
利手

ナムナナ全松ミシカウタシテ
野ヨアコトアリキテアシカシ
人のヤ負ムカニマヌアシカ
スエヤシカシルヤモトシカ
トキ半の様ヨウチ物ハシカシテ
シカシルムカシルシカシル
シカシルムカシルシカシル
前牛
初鹿

セシムのサホモキノイシカ
松の木アシカリシカ
リテテテテテテテテテテ
リテテテテテテテテテテ
シカシルムカシルシカシル
シカシルムカシルシカシル
シカシルムカシルシカシル
シカシルムカシルシカシル
前牛
初鹿

名
煙あく
ゆふく
家田部
刑院
ほと登て
今もとすく
鷺もとて
とく鷺もとすく
上あまて
生は
先けよしと
みゆく
入ふ
刑院
ゆてよ
さうの
しゆの
行年
ちりごと
のとよ
せ開き
せは

休て日も

ゆうりともや興

芭蕉

旅臺の所はうれしくて
ゆうてはやくゆゑすら歌
支曲の歌の小詩とりうて
川とよよう月とみちま
ねゆの歌を詠まくもよし
芭蕉
御本のあきふのさうま
き立

潤の音をつゝふす、あまうりて
ゆくゆくこゝこここここここ
いとよきへお守のたゞじ
ほのむらかみ報徳もとく
ゆくもお修行を吹消し
肩摩スももゆかの音葉
上をまの干を引もううるそ
うおぬ日をゆてまも芭蕉

千 めと 日 向 の 声 い ま セ て
ゆ あ す 甲 頭 の 羊 た ま さ よ
義 朝 ほ せ そ く ま ま ま し
み う ち う り ま え
さ ま お く と ス ぬ く り ま え
せ ま み く と く う の ま え
さ ま み く の し せ の ま き
ゆ う く て 使 事 人 え の 使 う く わ
聖 と し ま し う せ と あ う か わ
を 通

ウ
風やして秋の聲の音立ふ
姫乃理子の歌をうるわす
ちはとまの揚鳴り声
月立そむりのつまゆのうちや
ここもうもまの三才中
鳴岸のうちをくらぬもの
利牛

芭蕉
竜藏
孤松
利牛

各

枝風

雪のむねを口みきもあうとし
日のあくよへのあくをうそ
だきと一ふにすりとを並
あいくとまし人名の修了済
ヌカからぬもあづくら力反
れか葉をうつれてひろき鳥比
利半

ウ
鶴谷のむねを口みきもあうとし
日のあくよへのあくをうそ
だきと一ふにすりとを並
あいくとまし人名の修了済
ヌカからぬもあづくら力反
れか葉をうつれてひろき鳥比
利半
三五
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139
140
141
142
143
144
145
146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
162
163
164
165
166
167
168
169
170
171
172
173
174
175
176
177
178
179
180
181
182
183
184
185
186
187
188
189
190
191
192
193
194
195
196
197
198
199
200
201
202
203
204
205
206
207
208
209
210
211
212
213
214
215
216
217
218
219
220
221
222
223
224
225
226
227
228
229
230
231
232
233
234
235
236
237
238
239
240
241
242
243
244
245
246
247
248
249
250
251
252
253
254
255
256
257
258
259
260
261
262
263
264
265
266
267
268
269
270
271
272
273
274
275
276
277
278
279
280
281
282
283
284
285
286
287
288
289
290
291
292
293
294
295
296
297
298
299
300
301
302
303
304
305
306
307
308
309
310
311
312
313
314
315
316
317
318
319
320
321
322
323
324
325
326
327
328
329
330
331
332
333
334
335
336
337
338
339
340
341
342
343
344
345
346
347
348
349
350
351
352
353
354
355
356
357
358
359
360
361
362
363
364
365
366
367
368
369
370
371
372
373
374
375
376
377
378
379
380
381
382
383
384
385
386
387
388
389
390
391
392
393
394
395
396
397
398
399
400
401
402
403
404
405
406
407
408
409
410
411
412
413
414
415
416
417
418
419
420
421
422
423
424
425
426
427
428
429
430
431
432
433
434
435
436
437
438
439
440
441
442
443
444
445
446
447
448
449
450
451
452
453
454
455
456
457
458
459
460
461
462
463
464
465
466
467
468
469
470
471
472
473
474
475
476
477
478
479
480
481
482
483
484
485
486
487
488
489
490
491
492
493
494
495
496
497
498
499
500
501
502
503
504
505
506
507
508
509
510
511
512
513
514
515
516
517
518
519
520
521
522
523
524
525
526
527
528
529
530
531
532
533
534
535
536
537
538
539
540
541
542
543
544
545
546
547
548
549
550
551
552
553
554
555
556
557
558
559
560
561
562
563
564
565
566
567
568
569
570
571
572
573
574
575
576
577
578
579
580
581
582
583
584
585
586
587
588
589
590
591
592
593
594
595
596
597
598
599
600
601
602
603
604
605
606
607
608
609
610
611
612
613
614
615
616
617
618
619
620
621
622
623
624
625
626
627
628
629
630
631
632
633
634
635
636
637
638
639
640
641
642
643
644
645
646
647
648
649
650
651
652
653
654
655
656
657
658
659
660
661
662
663
664
665
666
667
668
669
670
671
672
673
674
675
676
677
678
679
680
681
682
683
684
685
686
687
688
689
690
691
692
693
694
695
696
697
698
699
700
701
702
703
704
705
706
707
708
709
710
711
712
713
714
715
716
717
718
719
720
721
722
723
724
725
726
727
728
729
730
731
732
733
734
735
736
737
738
739
740
741
742
743
744
745
746
747
748
749
750
751
752
753
754
755
756
757
758
759
750
751
752
753
754
755
756
757
758
759
760
761
762
763
764
765
766
767
768
769
770
771
772
773
774
775
776
777
778
779
770
771
772
773
774
775
776
777
778
779
780
781
782
783
784
785
786
787
788
789
790
791
792
793
794
795
796
797
798
799
800
801
802
803
804
805
806
807
808
809
8010
8011
8012
8013
8014
8015
8016
8017
8018
8019
8020
8021
8022
8023
8024
8025
8026
8027
8028
8029
8030
8031
8032
8033
8034
8035
8036
8037
8038
8039
8040
8041
8042
8043
8044
8045
8046
8047
8048
8049
8050
8051
8052
8053
8054
8055
8056
8057
8058
8059
8060
8061
8062
8063
8064
8065
8066
8067
8068
8069
8070
8071
8072
8073
8074
8075
8076
8077
8078
8079
8080
8081
8082
8083
8084
8085
8086
8087
8088
8089
8090
8091
8092
8093
8094
8095
8096
8097
8098
8099
80100
80101
80102
80103
80104
80105
80106
80107
80108
80109
80110
80111
80112
80113
80114
80115
80116
80117
80118
80119
80120
80121
80122
80123
80124
80125
80126
80127
80128
80129
80130
80131
80132
80133
80134
80135
80136
80137
80138
80139
80140
80141
80142
80143
80144
80145
80146
80147
80148
80149
80150
80151
80152
80153
80154
80155
80156
80157
80158
80159
80160
80161
80162
80163
80164
80165
80166
80167
80168
80169
80170
80171
80172
80173
80174
80175
80176
80177
80178
80179
80180
80181
80182
80183
80184
80185
80186
80187
80188
80189
80190
80191
80192
80193
80194
80195
80196
80197
80198
80199
80200
80201
80202
80203
80204
80205
80206
80207
80208
80209
80210
80211
80212
80213
80214
80215
80216
80217
80218
80219
80220
80221
80222
80223
80224
80225
80226
80227
80228
80229
80230
80231
80232
80233
80234
80235
80236
80237
80238
80239
80240
80241
80242
80243
80244
80245
80246
80247
80248
80249
80250
80251
80252
80253
80254
80255
80256
80257
80258
80259
80260
80261
80262
80263
80264
80265
80266
80267
80268
80269
80270
80271
80272
80273
80274
80275
80276
80277
80278
80279
80280
80281
80282
80283
80284
80285
80286
80287
80288
80289
80290
80291
80292
80293
80294
80295
80296
80297
80298
80299
80300
80301
80302
80303
80304
80305
80306
80307
80308
80309
80310
80311
80312
80313
80314
80315
80316
80317
80318
80319
80320
80321
80322
80323
80324
80325
80326
80327
80328
80329
80330
80331
80332
80333
80334
80335
80336
80337
80338
80339
80340
80341
80342
80343
80344
80345
80346
80347
80348
80349
80350
80351
80352
80353
80354
80355
80356
80357
80358
80359
80360
80361
80362
80363
80364
80365
80366
80367
80368
80369
80370
80371
80372
80373
80374
80375
80376
80377
80378
80379
80380
80381
80382
80383
80384
80385
80386
80387
80388
80389
80390
80391
80392
80393
80394
80395
80396
80397
80398
80399
80400
80401
80402
80403
80404
80405
80406
80407
80408
80409
80410
80411
80412
80413
80414
80415
80416
80417
80418
80419
80420
80421
80422
80423
80424
80425
80426
80427
80428
80429
80430
80431
80432
80433
80434
80435
80436
80437
80438
80439
80440
80441
80442
80443
80444
80445
80446
80447
80448
80449
80450
80451
80452
80453
80454
80455
80456
80457
80458
80459
80460
80461
80462
80463
80464
80465
80466
80467
80468
80469
80470
80471
80472
80473
80474
80475
80476
80477
80478
80479
80480
80481
80482
80483
80484
80485
80486
80487
80488
80489
80490
80491
80492
80493
80494
80495
80496
80497
80498
80499
80500
80501
80502
80503
80504
80505
80506
80507
80508
80509
80510
80511
80512
80513
80514
80515
80516
80517
80518
80519
80520
80521
80522
80523
80524
80525
80526
80527
80528
80529
80530
80531
80532
80533
80534
80535
80536
80537
80538
80539
80540
80541
80542
80543
80544
80545
80546
80547
80548
80549
80550
80551
80552
80553
80554
80555
80556
80557
80558
80559
80560
80561
80562
80563
80564
80565
80566
80567
80568
80569
80570
80571
80572
80573
80574
80575
80576
80577
80578
80579
80580
80581
80582
80583
80584
8

まのの月をかどちて、故 ちユ 俗已
舟中へゆる四月三日
まほりらのまづよとあらり川
名 美くもあれどうす御みを
舟中へゆるよへりもく
おとひも著くとえりふる
え集めてハモリを着色口

解まを捨て候へまつてとみ
かごく（あとてサマ代のれ
ままでうとうと候こまうし
とまうへりて火をさりてまく
又りさむの念をさりて明利半
持もわして壁こまくし
大坂の人よまたまくの日
はとせざんと船舟のまよ入
那波

すまやからぬるの音のさけまつ
次の小船にてつよもももとく
御室よりみてあれハ改々令ル
たつのうねりをもどす事無く
ありゆきは内より降りて
男たるのうきまくろはく
サセ

枝川
ふら
一
ふ理
柳葉
利牛
さく水

野波
佐國
名氣
利久
さく水

撰者芭蕉門人

志士氏

小泉代野坡屋

池田氏

利牛

元祿七歲次甲戌

六月廿八日

